

黒川小 だより

白川町立黒川小学校
校長 武市 進
児童数 62名
白川町黒川 2808-1
TEL 77-1101
2017年4月7日発行
校報 No. 1

校長室から山々を眺めると霞んでみえます。春を感じる季節となりました。しかし、去年は、この時期には、山々の所々がこぶしの花で白く色づき、校庭の桜も満開でした。今年は桜の花も咲いておらず、やや遅れているのかと思います。

新1年生10名を迎え、全校児童62名(7学級)で黒川小学校の出発です。3名の職員が転出しましたが、新たに4名の職員を迎え、黒川小学校18名の職員の力を結集して、また、保護者の皆様や地域の皆様のお力添えを得て、学校の教育目標の具現を目指します。

<学校の教育目標 (めざす子ども像) >

心豊かに 自ら学ぶ たくましい 黒川の子

さて、今年度の学校課題は、以下の3点です。

①基礎的・基本的な知識及び技能の定着と表現力の育成

②主体的に学ぶ子の育成

③仲間と高め合える子の育成

学校の第一の目標は、子ども達一人一人に確かな学力を育成することです。黒川小学校は各学年7~13人の小規模校です。人数が少ないということは、40人の学級と比べると一人一人の子どもに注ぐ教師のエネルギーは多くなります。子ども一人一人が、みんなの前で活動する機会も多くなります。こうした利点を十分に生かして、一人一人に基礎的・基本的知識、技能の定着を図るとともに、「話す」「書く」といった表現力の育成、自分なりの学び方を身に付け主体的に学ぶ子の育成に努めてまいります。

また、黒川で育った子どもたちは、黒川の地に誇りをもち、どんな集団に属してもどんな境遇に立たされても、自分の力で仲間とともに未来に向かい切り拓く「たくましさ」をもっています。この力をさらに育てていきます。

そのために次のことを大切にしていきます。

「学校は鍛えの場」

子どもの人数が少なくなると一人一人に目が届きます。だからといって、子どもが困らないように教師がすべてにお膳立てしては、子ども達の主体的な活動を奪うことになり、「たくましさ」を育てることにはなりません。まずは、子どもが「自分でやってみる」を第一に考え、教師は子どもを見守る姿勢を大切にします。そして、子ども達が自分の力で乗り越えられるように支援し、乗り越えた時に大いに褒めます。その積み重ねが子どもたちの自信につながります。

「集団の中で育てる」

黒川小学校の子ども達の多くは、小さい頃から同じ集団に所属しており、集団の中で安定した生活を送っています。お互いの長所と短所を理解し合って生活しています。このことは基本的にはとてもよいことです。しかし、今までの自分の殻を破って、自分を変えようとしたときに集団からのプレッシャーがはたらき、自分の殻を破り難くすることや、自分の意思をしっかりとした言葉にして伝えなくても仲間がわかってくれることがあります。こうした弱さを考慮しながら、集団の中で自分の意思をしっかりと表現し成長する子どもを育てます。